

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年6月23日（月）

2 確認箇所

- ・瓦礫類一時保管エリアN（図1）
- ・増設多核種除去設備（図1）

3 確認項目

- （1）瓦礫類一時保管エリアNの状況
- （2）増設多核種除去設備の現況

4 確認結果の概要

（1）瓦礫類一時保管エリアNの状況

東京電力は、令和10年度中に、すべての固体廃棄物（ただし、水処理二次廃棄物および再利用・再使用対象を除く）の屋外での一時保管を解消することを目指し、その一つとして、瓦礫類一時保管エリアN（以下「一時保管エリアN」）でノッチタンクに収納されて保管されている汚染土壌※を別の保管容器に入れ替え、固体廃棄物貯蔵庫へ運搬するとしている。

6月末から一時保管エリアNに設置された屋根の撤去が開始され、7月初めにはノッチタンクの蓋を開放する作業が予定されていることから、当該エリアの状況を確認した。（前回確認：[令和7年6月18日](#)）

- ・一時保管エリアNの周囲は、単管パイプやロープで区画されており、関係者以外の立ち入りを禁止する措置が取られていた。（写真1）
- ・ノッチタンクは2段に積み上げて保管されていた。2段積みとなっているノッチタンクの上段は、天井部とバンドで固縛されており、荷崩れ防止の対策が講じられていた。（写真2）
- ・屋根の撤去に使用する重機が仮置きされていた。作動油の漏えい等の異常は認められなかった。（写真3）
- ・汚染土壌の入れ替え作業中に雨水がエリア内へ浸入し、汚染土壌に触れた雨水が排水側溝や排水路へ流出しないよう、堰の外側に新たに土のうが設置され、これら土のうに被せたシートの表面には、防水用のコーティング塗装が施されていた。（堰による流出防止に加えた追加的な安全対策）。（写真4）
- ・加えて、屋根を外した箇所からの雨水浸入を防止するため、一時保管エリア内の上部に雨除けシートの設置もされていた。（確認箇所は2箇所）（写真5）

※平成25年及び平成26年に発生したタンクエリアからの漏えいにより汚染した土壌。土のうに回収した上で、ノッチタンクに収納されている。

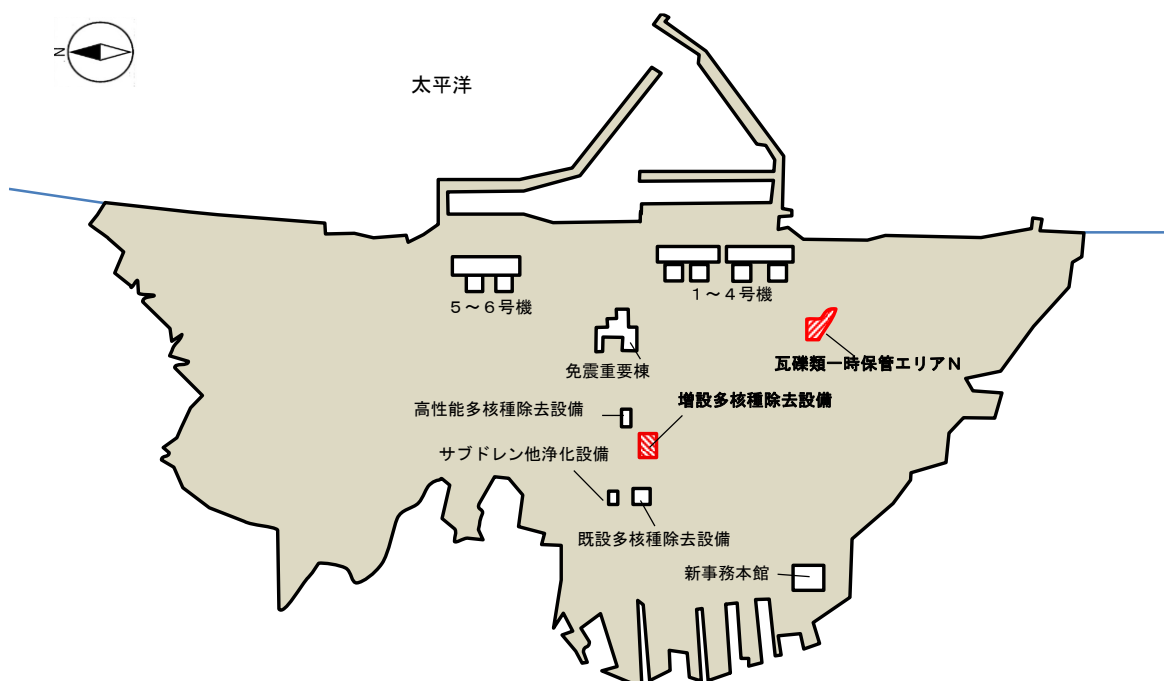
(2) 増設多核種除去設備の現況

福島第一原子力発電所では「増設多核種除去設備配管洗浄作業における身体汚染(令和5年10月)」や「高温焼却炉建屋からの放射性物質を含む水の漏えい(令和6年2月)」など、汚染水処理設備に関するトラブルが連続して発生している。そのため、汚染水処理設備の運転状況や設備機器の点検状況を適宜、継続して確認している。

本日は、増設多核種除去設備(以下「増設ALPS」という。)建屋内で実施されている設備機器作業等の状況を確認した。(前回確認：[令和7年5月29日](#))

- ・増設ALPSは、A系、B系及びC系で構成されており、当日はC系吸着材交換の準備作業及び各設備の点検等が行われていた。(写真6)
- ・HIC[※]払い出しエリアにおいて、HIC上部を覆うビニールハウスの移設作業が予定されていることから、移設作業に伴う事前準備等が実施されていた。(クレーンによるクリーンハウス吊り上げ準備工程の確認及び移動後のハウス内の拭き取りによる汚染検査準備等)(写真7)
- ・建屋内を確認した範囲では、配管や設備からの漏えい、水たまり等の異常は認められなかった。

※HIC(High Integrity Container:高性能容器)は、汚染水の処理をする際に発生する泥状物及び使用後の放射性物質吸着材を保管するための容器。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1－1)
一時保管エリアNの外観①



(写真 1－2)
一時保管エリアNの外観②



(写真 2)
ノッチタンクの保管状況



(写真 3)
重機の仮置き状況



(写真4)
土のうの設置状況
※土のうに防水塗装が施されている



(写真5)
雨除けシートの敷設状況



(写真6)
増設ALPSの各設備（反応槽）に
おける点検作業の実施状況



(写真7)
増設ALPSのHIC取り出しに
係るハウス移動準備作業

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。